福岡大学病院消化器内科におけるラジオ波焼灼術の10年間（2000年から2009年）の臨床統計

岩田　郁　阿南　章　入江　真　岩下　英之　上田　秀一　久能志津香
坂本　雅晴　櫻井　邦俊　釈迦堂　敏　早田　哲郎　竹山　康章　西澤　新也
平野　玄竜　福永　篤志　森原　大輔　横山　圭二　四本かおる　向坂彰太郎

福岡大学医学部消化器内科学

要旨：福岡大学病院消化器内科では，肝臓の悪性腫瘍に対し2000年８月よりラジオ波焼灼術を開始した．今回，2000年８月から2009年12月までの10年間にラジオ波焼灼術を行った1135症例の臨床統計を行った．ラジオ波焼灼術が行われた腫瘍の約93％が原発性肝癌であり残りの７％が転移性肝癌であった．原発性肝癌の99.2％が肝細胞癌であった．ラジオ波焼灼術数の年間のピークは治療を初めてから４年目の2004年が年間161例で最多であり，その後は年間120例前後であった．ラジオ波焼灼術の適応の基準は，肝臓内の腫瘍の最大径が３cm 以下，腫瘍数が３個以内であるが，原発性肝癌は約80％が同基準内であったが，転移性肝癌は同基準内であったものが54％と有意に少なかった．

索引用語：ラジオ波焼灼術，肝臓悪性腫瘍，原発性肝癌，転移性肝癌